

持することが出来るが、先行車が20m以内にいたり、加速中の対向車があたりすると最大1°Cもの高温側への誤差があり得ることが示された。ただこの場合、影響の大きな加速中の対向車は、先行車のようにいつも存在するのでなく、一過性であるから温度計の出力を連続記録している場合には、スパイク状ノイズとなるから、読み取りの段階でその影響を取り去ることが出来る。そのような処理をすれば、先行車の影響の0.3°C程度の高温側への誤評価があり得ることだけを留意すれば良いことになる。

この研究の途上で気付いたことだが、他の自動車の全く別種の影響として電氣的ノイズがある。このノイズの原因は明瞭ではないが、エンジンのスパークプラグまたは車載無線機から発生したものと推察される。熱電対温度計のワイヤがアンテナの役目をしてそれらから発生した電波を拾うらしい。そこで熱電対のワイヤは内径5mmの銅管に通してシールドし、銅管は自動車のボディを通してアースすることにより多少減少させることがで

きた。

終わりに、この研究に協力した大本 明、垣内寿生の両氏に感謝する。

文 献

- 河村 武, 1958: 都市気候研究における自動車による移動観測値に関する二・三の問題, 地理学評論, 31, 291-297.
 —, 1977: 都市気候の分布の実態, 気象研究ノート, 133, 26-47.
 佐橋 謙, 1974: 小学校の「風」の教材について—気象学の立場から—, 岡山大学教育学部研究集録, 39, 59-66.
 田宮兵衛, 1979: 小気候・局地気象—特に移動観測の方法について—, 天気, 26, 633-640.
 Tapper, N. J., P. D. Tyson, I. F. Owens and W. J. Hastie, 1981: Modeling the winter urban heat island over Christchurch, New Zealand, Jour. Appl. Met., 20, 365-376.
 土屋 巖, 1982: NOAA-6 AVHRR による都市ヒートアイランドの検出, 天気, 29, 555-557.

日本気象学会誌 気象集誌

第II輯 第61巻 第4号 1983年8月

目 次

- 重久陽亮: 東西波数 $m=0$ に対する浅水波方程式のノーマル・モード
 黄 栄輝・岸保勲三郎: 北半球多層モデル大気の夏季における地形と定常的な熱源に対する応答
 木田秀次: 半球 GCM で導かれた空気塊の大循環と輸送特性 第2部 対流圏と成層圏における空気塊の長時間運動
 中村 一・村上多喜雄: 数値実験から見たコールド・サージとリー・サイクロジェネシスに及ぼす山岳の影響 第1部 時間平均場
 村上多喜雄・中村 一: 数値実験から見たコールド・サージとリー・サイクロジェネシスに及ぼす山岳の影響 第2部 擾乱場
 伊藤久徳: 対流圏プラネタリー波の増幅についての観測的研究
 新田 勲: 夏のモンスーン期における東部チベット高原上の熱源の解析
 二宮洗三・長谷川隆司・巽 保夫: 停滞したリッジ西縁の亜熱帯レインバンド—観測と予報実験—
 播磨屋敏生・穂積邦彦・孫野長治: 雲観測に基づいた積雲対流活動度と大規模場の気象要素との関係
 椎野純一: 軸対称積雲モデルにおける雨滴の成長 第1部 微物理過程を詳しく取り扱ったモデルとパラメータ化したモデルとの比較
 高橋 勲: 熱帯における海洋性積雲の電荷構造と電荷発生機構
 広瀬勝己・土器屋由紀子・杉村行勇: 春季北太平洋西部海域における海上大気中のエアロゾル粒子の化学成分の変動について—大陸起源物質の影響—
 田中正之・中澤高清・青木周司: 大気中の二酸化炭素濃度の高精度測定
 三角幸夫: 惑星間空間磁場境界通過に対する対流圏の応答